基本目標	項目	実績値 (令和3年度)	目標値 (令和12年度)
1 人権を尊重した、ジェンダー平等の意識啓発の推進	社会通念・慣習・しきたりにおいて男女の地位が平等になっていると回答した市民の割合	10.3%	35%
	固定的性別役割分担意識に反対と思う市民の割合	70.9%	80%
	ジェンダー平等ということばの認知度	71.3%	90%
2 ワーク・ライフ・バランスの促進	待機児童数(保育園に申し込んだが入ることができない保育児童のうち、国基準に従って集計した待機児童の数)	1人	0人
	女性が職業を持つことについて「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」と考える市民の割合	54.0%	70%
3 あらゆる暴力の根絶	暴力を受けたときに相談できる窓口(女性のための相談室など)の認知度	22.5%	40%
	DVを受けたことのある市民の割合	12.2%	8%
4 生涯を通じた健康づくりと安心して暮らせる社会づくり	女性特有のがん検診の受診率		
	子宮頸がん検診の受診率	8.2%	14%
	乳がん検診の受診率	8.7%	14%
	生活困窮者自立支援相談の相談人数	633人	300人
5 性別に関わりなくあらゆる分野に参画できるまちづくりの推進	審議会等における女性委員の割合	29.2%	40%以上 60%以下

茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画

令和5(2023)年度～令和12(2030)年度

人権を尊重した、誰もがあらゆる分野に参画し、
活躍できる、
ジェンダー平等社会の実現

発行 茅ヶ崎市 編集 文化スポーツ部多様性社会推進課

令和5年(2023年)4月発行 100部作成
〒253-8686 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号
電話 0467-81-7150
ホームページ <https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

市では、平成5(1993)年に「ちがさき女性プラン」を策定して以降、継続して計画を策定し、男女共同参画社会の形成の推進に取り組んできました。

「第2次ちがさき男女共同参画推進プラン」の計画期間が終了するに伴い、SDGsのゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」の考えを加えるなど、社会情勢の変化を踏まえた「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画」を策定しました。

基本理念

人権を尊重した、誰もがあらゆる分野に参画し、活躍できる、ジェンダー平等社会の実現

基本目標 1 人権を尊重した、ジェンダー平等の意識啓発の推進

多様性を認め、尊重し合い、性別に関わりなく、あらゆる分野の活動に参画でき、市民一人一人がその能力や個性を十分に発揮するとともに、互いに協力し、責任を分かち合いながら暮らすことができる、誰もがジェンダー平等に対する意識を持った社会を目指します。

1 ジェンダー平等、男女共同参画についての理解を促進する

地域、家庭、学校教育、社会教育などあらゆる分野において、ジェンダー平等、男女共同参画に関する意識啓発・教育の機会を設け、ジェンダー平等、男女共同参画社会の実現に向けての取組を推進します。

2 人権を尊重し、多様性について理解を促進する

すべての人がお互いの人権を尊重し、自分らしく生きていくために、それぞれの持つ多様性への理解を深める人権意識を醸成する取組を推進します。

基本目標 4 生涯を通じた健康づくりと安心して暮らせる社会づくり

妊娠や出産、また女性特有の疾患など、性と健康に関する理解の促進を図り、心身の健康の維持増進を支援し、生涯を通じて健康に暮らせる社会を目指します。

また、ひとり親家庭、経済的困窮など様々な困難を抱える人々が安心して暮らせる社会を目指します。

8 女性の生涯にわたる健康を支援する

性別に関わりなく、本市に住む誰もが健康で暮らせるよう、男女が互いの身体的性差を十分に理解し合い、ともに健康に暮らしていくことが大切です。

女性が自らの心身について正しい知識・情報を入手し、自ら判断し、生涯にわたり健康を得ることができるよう、意識啓発、健康づくりの支援等を行います。

9 様々な困難を抱える人々が安心して暮らせる環境を整備する

高齢者、障がい者、ひとり親家庭、経済的困窮など様々な困難を抱える人々に寄り添い、自立に向けた支援を行うとともに、それらの方々、また周りの方々も含めて、安心して暮らせる地域づくりを進めます。

基本目標 2 ワーク・ライフ・バランスの促進

社会全体として、性別に関わらず、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など様々な活動について、自ら希望するバランスで展開することができ、すべての人が対等に働くことができる社会を目指します。

3 働きやすい環境をつくる

性別に関わりなく、あらゆる場面で多様な選択を行うことができるように、家庭形態の変化やライフスタイルに応じた支援を行います。
ジェンダー平等、男女共同参画社会の形成のため、固定的な性別役割分担意識に捉われない生き方・働き方の意識啓発の推進や仕事と生活の両立ができ、女性の能力・活力を生かすことができる働きやすい環境づくりを事業者とともに推進します。

4 子育て・介護がしやすい環境をつくる

地域の支援や福祉サービスにより、子育てをしている家庭や介護をしている人の負担軽減を図るとともに、性別に関わりなく、あらゆる場面で多様な選択を行うことができるように、家庭形態の変化やライフスタイルに応じて、子育てや介護をしながら働き続けることのできる環境づくりを行います。

5 男性の家事・子育て・介護への参画を進める

「男性は仕事、女性は家庭」という固定的な性別役割分担意識は解消されてきていますが、具体的な行動として、家庭・職場・地域活動での性別による役割分担は、いまだ解消されていないことから、男性の家事・育児・介護への参画を推進します。

基本目標 3 あらゆる暴力の根絶

配偶者等からの暴力(DV※)をはじめとした様々な暴力は、重大な人権侵害であり、決して許されるものではないという認識の醸成を図る取組を推進し、暴力の予防と根絶のために、悪いのは被害者ではなく、加害者であり、暴力を断じて許さない社会を目指します。

※「domestic violence (ドメスティック・バイオレンス)」の略。配偶者や恋人、婚約者、同棲相手、元配偶者など親密な関係にある者から受ける暴力や暴言をいいます。

6 暴力根絶のための意識啓発を推進する

DVなどの暴力の背景には、固定的な性別役割分担意識が根強く残っていることや、暴力に対する社会的な理解が不十分であることなどと考えられます。さらに近年では、被害の若年齢化や男性が被害者となるケースなども増え、暴力を断じて許さない社会づくりの重要性はますます高まっており、暴力根絶に向けた意識啓発を推進します。

7 暴力に関する相談がしやすい体制をつくる

暴力の被害を受けた際に相談しやすい身近な相談窓口があることの周知に継続して努めるとともに、相談者の家族関係、置かれている状況などを理解し、寄り添い、必要に応じて子どもを担当する部署など他の相談窓口や他の機関と連携をしながら、相談者が安心して相談できる体制づくりに努めます。

基本目標 5 性別に関わりなくあらゆる分野に参画できるまちづくりの推進

生活の経済的基盤である就業、雇用の分野で、働きたい誰もがその個性や能力を発揮できることは、女性の職業生活における活躍に欠かせないことであり、様々な施策に、男性の視点、女性の視点が入り、多様なニーズや意見が反映されるようあらゆる意思決定の場へ参画できる社会を目指します。

特に、災害時に円滑に対応できるよう平常時における備えの時点から、女性がまちづくりに参画するなど、あらゆる分野において、性別に関わりなく、参画できる社会を目指します。

10 政策・方針決定過程の場に女性の参画を促進する

政策・方針等を決定していく過程の場には、多様な視点や発想を持つ幅広い人材の確保が重要であり、どちらかの性別に偏ることなく、参画の機会が与えられるよう、女性が少なかった分野への女性の参画を促進します。

11 女性の職業生活における活躍を推進する

生活の経済的基盤である就業、雇用は重要であることから、女性の職業生活における活躍を引き続き推進します。

12 地域、防災などの分野における女性の参画を促進する

多様な人材が活躍し、参加できることが、特に防災の分野においては、重要であり、平常時から、男性の視点だけでなく、女性の視点を取り入れることで、災害に強い地域づくりへとつながります。地域、防災などの分野においてジェンダー平等の視点を取り入れ、女性の参画を推進します。